リイシリ

‘18. 5月

発行：利尻町立博物館
〒097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町
☎ 0163-85-1411, Fax-1282

マダニを知ろう

マダニが媒介する病気は、近年ニュースでもよくとりあげられるようになってきました。むやみに怖がる前に、まずはマダニやその病気のことをよく知ってみませんか？

6/3

「恙無く」の言葉にもあるように、ダニによってヒトにもたらされる病気については古くから日本でも関心が持たれていました。しかし、ライム病の感染や、SFTS（重症熱性血小板減少症候群）による死亡者が出たりと、近年、マダニと彼らが媒介する病気について、ますます身近な問題として我々も考えなくてはならなくなりました。

本年は、利尻島調査研究事業の招聘によりマダニとその感染症の研究者を本島にお呼びすることができましたので、そもそもマダニはどんな生活を送っている生き物なのか、そして彼らがヒトにも脅威をもたらす病気をどのようにして保有しているのか、基礎的なことを学ぶセミナーを開催することにしました。まずは座学にて一通りの知識を得た上で、実際に近くの森に行ってマダニを探してみたいと思っています。

利尻島にはシュルツェマダニなど数種のマダニの記録があり、山菜採りや犬の散歩などで、知らない間にマダニと接触したりする可能性も少なくありません。怖がるばかりでなく、興味深いマダニの不思議な生活を知ることで、うまく病気の予防などをしていただければと思います。

事業名：「マダニをよく知り、感染を防ごう！」～座学と採集会で知るマダニ～

共　催：利尻町立博物館・利尻島調査研究事業

講　師：新倉（座本）綾氏（国立感染症研究所・動物管理室）

日　時：6月3日（日）午前9時～10時半頃まで

集　合：午前9時までに交流促進施設「どんと」郷土芸能実習室へ

内　容：まず講師の方からマダニと、彼らが媒介する病気についてわかりやすく説明をしていただきます。その後、実習室から森林公園に移動して、参加者のみなさんとごいっしょにマダニの採集を試みます。ダニの研究者の方々がよくやっている白い布を使った「フランネル法」を実際にみなさんにやっていただき、どんな場所にダニがいるのかを確かめてもらいます。

申　込：申込不要のですので、お気軽にご参加ください。

その他：雨天の場合は座学、および室内での標本観察などを行う予定です。採集会では肌を露出しない服装のほか、あれば虫除けスプレーなどをご持参ください。採集会でも、基本的に歩道から外れることはなく、参加されても極端にマダニに出会う機会が増えることはありませんので、ご心配なく！

【講師から一言】

日本は世界的に見ても非常に自然が豊かな国で、マイヤーズの生物多様性ホットスポットマップ35エリアのなかにも含まれています。海と山に囲まれた複雑な地形、変化に富んだ気候、多様な土地利用などに加え大陸縁の島弧という特殊な条件も加わって、地域々々に非常に多様な〝種〟とその遺伝的多様性が維持されてきたと考えられます。しかし近年の地球温暖化に加え、高齢化による里山の手入れ不足や有害鳥獣・外来種の増加など、我が国を取り巻く様々な変化によって、生態系バランスが崩れ、生物多様性に深刻な影響が生じる恐れが高まりつつあることも事実です。

マダニは動物と密接な関係にあります。なぜなら殆どのマダニが、成長（脱皮）や産卵に吸血を必要とするからです。その間には病原体のやりとり（＝感染環）があり、マダニ媒介性感染症は、ヒトや動物がこの感染環に関わることで発生します。マダニの種類は世界中で800以上と言われますが日本にはそのうち47種が生息しています。一口にマダニと言っても、我が国に生息するマダニは多様で、選り好みの激しいマダニ（鳥が好き、爬虫類が好き、寒い所が好きなど）、オスがいなくても産卵するマダニ（単為生殖）などいろいろです。マダニ媒介性感染症の対策にはこれらの特徴を明らかにし理解することが重要なのです。たとえば、あるマダニ媒介性感染症には地域性があるのは何故か？その主な理由が媒介マダニの生息域に地域性があったためと後で証明された、などです。

私たちはこれまで日本、そして日本の島々に分布する病原体（バベシア原虫）にグローバルな観点から着目し、興味深い知見を得てきました。セミナーでは、その研究の一端をご紹介します。また、マダニの生態や様々なマダニが媒介する病原体についても触れてみたいと思います。これを機にマダニ媒介性感染症について感心を深めて頂くことができればたいへん嬉しいと思います。

今回は自然豊かな利尻での調査活動を行う機会を頂きありがとうございます。ここにしかない、世界的に貴重な発見があることを期待しています。

利尻の本棚　51

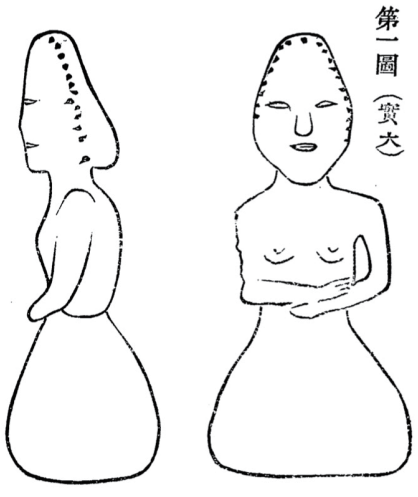
失われたビーナス

坪井正五郎，1901．北海道利尻貝塚發見の海獣牙製の人形．東京人類學會雜誌，（178）：125～128．

前回に続いて「亦稚貝塚」に関係する一編です。

坪井正五郎は帝国大学の人類学教室の教授で、明治33年7月に藤井秀会員が「沓形村字マタワッカ貝塚」にて発見した人形についての報告を発表しています。その人形は報告に掲載されている左図のようなものであり、藤井氏の記述によると「高廿曲尺二寸八分　重さ十六匁　両側の黒點は浅き凹窩なり　色は古き骨又は歯牙の如くにて淡褐色　滑澤あり」となっていますから、およそ高さ8・5センチメートルで60グラムほどのものと思われます。このような牙製婦人像はお隣の礼文島からも発見されており（北海道指定文化財）、オホーツク文化時代のものと考えられています。

さて、この亦稚貝塚の人形、残念ながら旅行中の紛失の不幸にあい、現存しておらず、坪井先生も「紛失とは實以て遺憾千萬な事」と書かれています。



坪井（1901）の図より一部転載

本コラムは不定期連載で、利尻に関係した文献を紹介するコーナーです。

速報！

亦稚で掘ってみた・・

5月12日に約40年ぶりの試掘。さて、そこからはどんなものが出たのでしょうか？

ちょうどよいお天気となった12日は、約40年ぶりの亦稚貝塚の発掘日。調査の中心メンバーである柳澤清一さん（元千葉大学教授）ほか2名の考古学の研究者、そして全くの発掘素人である当館学芸員2名の計5名で、宗谷バス裏手にある予定地に向かいました。土地境界や地形などを検討しながら掘る場所を決定し、1×2メートルの区画を掘りすすめることにしました。ご近所の方によると、調査区のすぐ横に干しアワビの加工場があったらしく、大きなアワビの殻が地表面のすぐ下の層からザックザックと出てきます。「これが小判であればなあ～」と思いながら掘っていくと、おはじきや陶器、一升瓶の底、ガラス瓶製の目薬、など、ちょっと前の懐かしい品々も出てきます。その頃になると、ポツリポツリと見学者も現れはじめ、1977年の発掘の時の話などをしてくださる方もいらっしゃいました。

お昼近くになると、ひと抱えもあるような大きな岩が出てきましたが、その頃からいよいよオホーツク文化期のものと思われる土器なども見つかりはじめ、スコップを手にする我々も慎重に土をどけるようになってきました。出てくる土器は無紋のものが多いのですが、なかには指でつまんで紐のような装飾をつけたり、丸い点刻を規則正しくつけたようなもの、直線の筋が彫られたものなどもあり、次はなにが出るのだろうとスコップを動かす手の疲れも忘れるぐらいです。午後2時からは柳澤先生による解説付きの見学会を行い、その後も次にどんなものが出てくるのだろうと見学を続ける方もいたりと、みなさんの興味も穴が深くなるごとに高まるようでした。最終的に0.8メートルほどの深さまで掘りましたが、柳澤先生が確認したかった土器片なども見つかったりと、ある程度の成果がでたということで調査終了となりました。

今回の調査報告については、また後日なんらかの形でみなさまにもご紹介したいと思っていますが、地面のそれほど深くない場所に、かなり古い時代から島に住みついていた人の痕跡がこんなにも出てくることに、またひとつ利尻の歴史の奥深さを感じさせられた体験となりました。

見学会には予想以上の方々が来てくださり、興味深そうに出土物などをご覧になっていかれました。

半分ぐらいまで掘り進めると、いよいよ土器などが出て来るように！

右が柳澤先生。表層は近くにあった加工場のものとされるアワビの殻がザクザク出てきました。

平成30年度博物館開館カレンダー

（6~11月分）

開館日　◯祝日　／閉館日

6月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	~~4~~	5	6	7	8	9
10	~~11~~	12	13	14	15	16
17	~~18~~	19	20	21	22	23
24	~~25~~	26	27	28	29	30

7月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	◯16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	◯11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	~~3~~	4	5	6	7	8
9	~~10~~	11	12	13	14	15
16	◯17	~~18~~	19	20	21	22
◯23	◯24	~~25~~	26	27	28	29
30						

10月

日	月	火	水	木	金	土
	~~1~~	2	3	4	5	6
7	◯8	~~9~~	10	11	12	13
14	~~15~~	16	17	18	19	20
21	~~22~~	23	24	25	26	27
28	~~29~~	30	31			

11月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	◯3
4	~~5~~	6	7	8	9	10
11	~~12~~	13	14	15	16	17
18	~~19~~	20	21	22	◯23	~~24~~
25	~~26~~	27	28	29	30	

利尻町博物館協議会（4/25）

平成30年度の利尻町博物館協議会が4月25日に開催され、前任期から引き続き任命された5名の委員による会議が交流促進施設「どんと」にて行われました。会長として佐藤悟氏、副会長として津田和子氏が選任された後、事務局からは新規採用学芸員の紹介、平成29年度の事業報告、平成30年度の事業計画などが事務局から発表されました。任期は平成32年3月までとなりますが、今後とも各委員からは各種事業や会議などを通じて、様々なご意見をいただければと考えております。

ぷち・りいしり

傷病鳥日誌

ヤマシギ、2018.5.4、村上賢治さん、利尻富士町鬼脇：カワセミ♀、2018.5.5、田中洋子さん、利尻富士町鴛泊。

リイシリ購読

町内の方には無料でお届けしています。

町外の方は1部につき送料82円切手のご負担で定期購読が可能のほか、メール配信、インターネットのサイトにて最新号やバックナンバーの閲覧なども可能になっております。定期購読についてのお問い合せは博物館、またはrishiritownmuseum@town.rishiri.hokkaido.jpまでお気軽にどうぞ！

購読件数

町内33（±0）、一般15（±0）、交換21（±0）、メール104（±0）、合計173件（229部）。

バックナンバー

過去一年分までダウンロードが可能です。検索：「博物館だより　リイシリ」で！

【ちょこっとメモ】 **春の探鳥会・悪天中止**　野鳥の会道北支部と共催予定であった春の探鳥会（5/3）は悪天のため中止となりました。本事業、2013年からの計6回のうち3回が隔年で中止となっており、連休中はなかなかいいお天気に恵まれないようです・・。秋の探鳥会に乞うご期待！